小城市立小城中学校

令和８年度　全国学力・学習状況調査の分析と今後の取組について

令和８年１０月

中学３年生を対象に今年４月に実施された、全国学力・学習状況調査（国語・数学・英語・意識調査）について、結果の分析と今後の取組をお知らせします。

国語、数学、英語につきましては、学習指導要領の内容「知識・技能」「思考・判断・表現」別に分析と改善に向けた取組をまとめています。また、意識調査（生徒質問紙）につきましては、全国・県と比較して数値が特に高かった項目、低かった項目についてグラフ化し、結果の分析と今後の取組について示しています。

【小城中学校の国語と数学の調査の正答率について】

国　語　：　正答率は国の平均と比べ「大きく下回る」、県の平均と比べ「やや下回る」
数　学　：　正答率は国の平均と比べ「大きく下回る」、県の平均と比べ「やや下回る」

【個人票（調査結果）について】

本資料とともに生徒に配付しています。
なお、採点は国で行っているため、答案用紙の返却はありません。

【今回の調査を受けて】

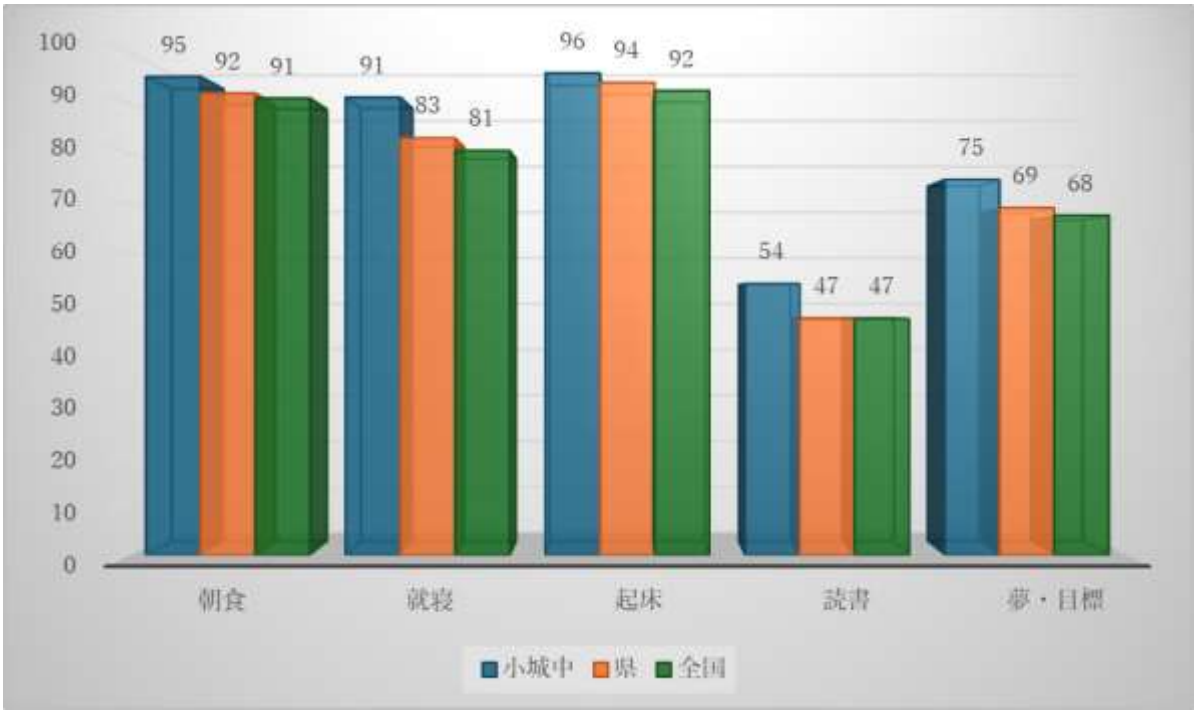
今回の調査を受けて、職員で結果分析と今後の具体的な取組について協議しました。強みとなっている部分をさらに伸ばしていくとともに、弱みとなっている部分に対する効果的な指導を実践していきます。

本校では、「起床時間、就寝時間が安定している生徒が多い」、「日々、読書をしている、または読書を２時間以上している生徒が多い」、「夢や目標をもっている生徒が多い」という調査結果が出ています。AAR サイクルのスパイラル化が推進され成果が表れています。一方で、思考・判断を問う問題や記述式の問題の正答率がやや低く、課題と考えています。今後は、主体的な学習、対話的な学習に取り組むための手立てを講じ、子どもたちの健やかな心身の成長のため取り組んでいきたいと考えております。引き続き、本校の取組に御理解、御協力いただきますようお願い申し上げます。

生活習慣に関する意識調査

全国・県と比べて数値が高かった項目　＊「はい」での回答のみで比較

	調　査　の　項　目
1	朝食を毎日食べていますか
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
4	学校の授業時間以外に、普段から読書をしている（１０分以上）
5	将来の夢や目標をもっていますか



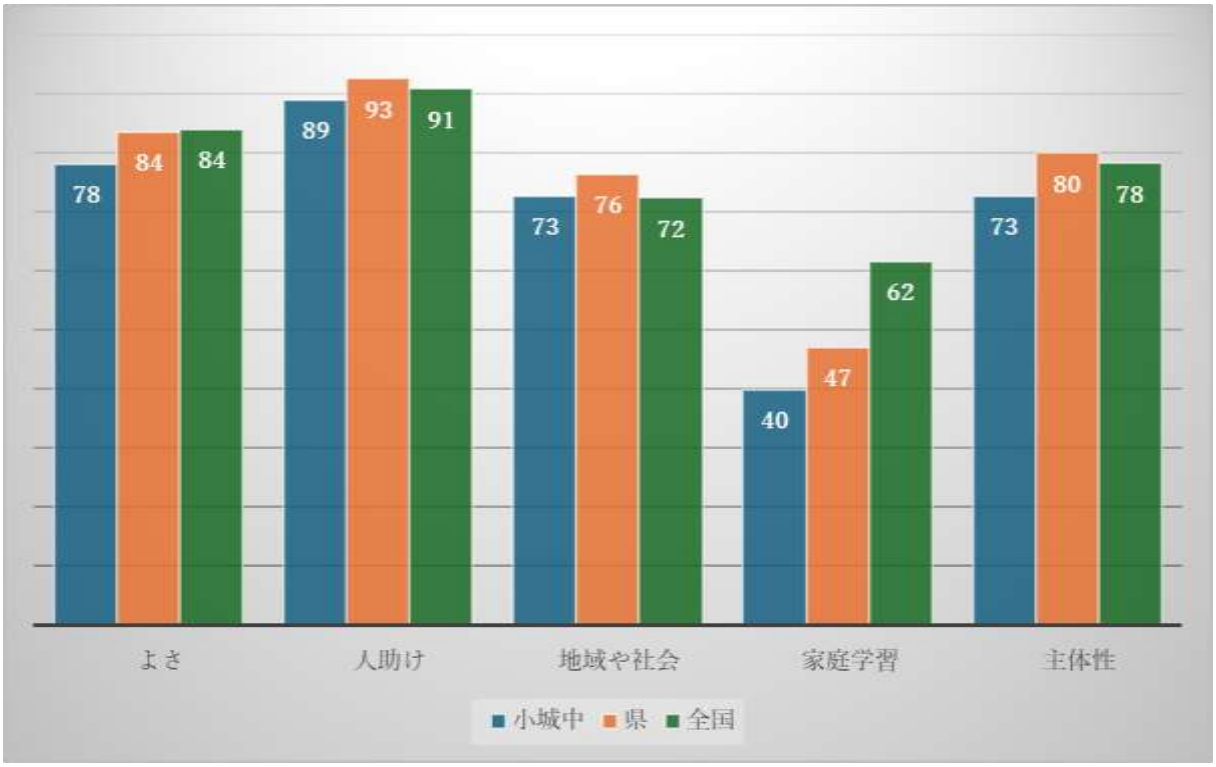
分析と取組

【分析】規則正しい安定した生活習慣がおおむね確立されている。日々、読書に取り組んでいる生徒も多い。また、自分の将来について夢や目標を持っている生徒が多い。しかしながら、その成果が学習に十分反映されているとは言い難い状況。

【取組】家庭での有効な時間の使い方を含め、一日や一週間の見通しなど、現在、取り組んでいるAAR サイクルをさらに推進し、生徒の効果的な学習やより良い過ごし方を支援継続する。

全国・県と比べて課題となる項目　＊「はい」での回答のみで比較

	調　査　の　項　目
1	自分には、よいところがあると思いますか
2	人が困っているときは、進んで助けていますか
3	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
4	学校の授業時間以外に、普段１時間以上勉強していますか
5	分からないことや詳しく知りたいことあった時に、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



分析と取組

【分析】学校は楽しいと思っている生徒が多いが、自己肯定感や向社会性がやや低い傾向にある。その要因として、課題解決に向けての主体的で対話的な学習や活動がやや不得手のように感じられる。気持ちはあるが、即座にどのような行動をとればよいかなどのスキルを高めていく必要性がある。

【取組】校内研究において、AAR サイクルのスパイラル化をさらに推進していくことで、生徒のメタ認知を高め、自己肯定感の向上を図る。また、学習の自己調整力を高めるための学習スキル指導や対話スキル学習を取り入れて学習支援をさらに充実させていく。特に総合的な学習で、ICT を活用したプレゼンテーションの場を増やしたり、道徳で対話的な学習の場面を増やしたりするなど、実践での学びを深めていく機会を増やしていく。

◆令和８年度　（　全国学力・学習状況調査　）　《　国語科　》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

一問（２二）を除き、すべての設問において正答率は全国平均を下回った。また、４つの設問においては無解答率が 20.0 ポイント～30.0 ポイントとなっており、こちらも全国平均に比べ非常に大きい数値となっている。

観点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・文脈に即した漢字を書くことが難しく、漢字が持つそれぞれの意味を把握し、活用することができていない。 ・語句が示す辞書的な意味を理解しておらず、その類義語についても理解を進めることができていない。	・どちらの課題についても、語句語彙の獲得が最優先となる。生徒が日常的に触れる文章は、おおよそ大衆向けのものであり、労せず理解できるものが多い。そのため、そうした書籍に触れる機会は多いが、反面、新たな語句語彙を自然と獲得する機会に恵まれていないと考える。よって、単元構想において、指導者が意図的に新たな語句語彙を獲得させる手立て、例えば意味調べであったり、指定した語句を使って作文をしたり、または類義語や対義語を調べさせたりし、その語句語彙を累積していけるようなノートやファイル等を活用すべきと考える。
思考・判断・表現	・発言の内容について、相手や目的を想像しながら考え、表現することを苦手としている。 ・擬態語がどのような様子を表現しているのか、また、例文を比較しながら意味や効果を理解し、言語化することができていない。	・相手や目的を意識させて表現させるために、実生活・実社会に即した単元を通した言語活動の設定が必要である。 ・まずは、擬態語に触れる機会を増やし、上記の知識・技能と同様に、語句語彙を豊かにしていく必要がある。また、擬態語から理解した様子を言語化していくためにも、多くの語句語彙に触れさせながら多様な表現活動に取り組み、適切な相互評価を行わせたり、異学年交流を始めとして、地域や他校との交流に取り組ませたりするなどして、他者意識を育んでいく必要がある。

◆令和８年度　（　全国学力・学習状況調査　）　《　数学科　》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

・選択問題や単純解答問題に対しては、テストの中でどうにかして解こうとしており、全体を通して無回答率もそれほど高くはないが、記述問題については無回答率が高い。手順が１つで済む問題に関しての正答率は高く、手順が２つ３つとなると正答率が下がる傾向にある。

・生徒質問において、(63)、(64)の肯定的な解答の割合が低い。数学と実生活との関係を見いだせずに、数学を学習することの有用性を感じている生徒が低い。

観点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・単純解答の問題に対しては、答えようとする生徒が多い。また、正答率も高い。 しかし、手順が多くなるとあきらめてしまう生徒が多い。	・小テストや授業中の演習問題において、単純解答の問題、手順が多くかかる問題をバランスよく盛り込んで問題に慣れさせる。 ・解答の手順などを「なぜその解答になったのか」「どう考えたか」などの発問を行い、計算の課程や考え方を広く共有させる。
思考・判断・表現	・記述式の問題に対しての無回答率が高い。	・学び合いや話合い活動を授業の中に設け、自分の考えや解法を説明させる活動を取り入れる。また、黒板やＩＣＴを活用して、理解している生徒の考え方を全員に共有させる。

◆令和８年度　（　全国学力・学習状況調査　）　《　英語科　》

今回の調査で明らかになった全体の傾向

・本校の平均正答数は 3.1 問（7 問中）で、県 3.2 問、全国 3.7 問を下回った。
・平均 IRT スコアは 456 で、県 472、全国 499 を下回った。
・IRT バンド 4・5 の生徒は 11.1％で、県 20.0％、全国 28.6％より少なかった。
・「聞くこと」では、必要な情報を聞き取る設問が県・全国を上回った。
・「読むこと・書くこと」、特に英文を書く力と最後まで解答する姿勢に課題が見られた。

※IRT スコア　IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500 を基準にした得点で表すもの。
※IRT バンド　IRT スコアを１～５の５段階に区切ったもので、平均バンドは３、最も高いバンドが５となる。

観点	分析結果・本校の課題	改善に向けた具体的取り組み
知識・技能	・注文場面の会話を聞き取る設問は 59.3％で、県 58.1％を上回った。 ・音声から定型的な内容を聞き取る力には、一定の定着が見られた。 ・文章を読んでグラフの空所を補う設問は 51.0％で、県・全国を下回った。 ・与えられた情報を基に過去の出来事を書く設問は、44.1％と 33.8％であった。 ・語彙や文法、時制、語順の知識を、読解や英作文の中で活用する力に課題がある。	・授業冒頭の帯活動で、既習語句、語順、時制、動詞の形を継続的に確認する。 ・音読、口頭練習、並べ替え、短文作成を関連付け、知識を活用する機会を増やす。 ・「主語＋動詞＋目的語」などの文の骨格を示し、英文の構造を意識させる。 ・小テストや誤答分析を活用し、一人一人のつまずきに応じた再学習を行う。 ・学年で重点的に指導する文法事項や指導方法を共有し、定着状況を継続して確認する。
思考・判断・表現	・必要な情報を聞き取る設問は 80.0％、81.6％で、県・全国を上回った。 ・話し手が最も伝えたいことを捉える設問も 60.7％で、県・全国を上回った。 ・必要な情報の読み取りは 64.7％、物語の概要把握は 42.2％で、県・全国を下回った。 ・考えや理由を書く設問は 16.6％、まとまりのある文章を書く設問は 15.7～30.6％であった。 ・情報を整理し、自分の考えや理由をまとまりのある英文で表現する力に課題がある。	・聞いたり読んだりした後に、「分かったこと・自分の考え・理由」をメモさせる。 ・メモを基にペアで伝え合ってから書くことで、考えを整理する時間を確保する。 ・モデル文、重要語句、Useful Expressions、文の型を段階的に示し、書き始めを支援する。 ・一文から始め、理由や具体例を加えながら、複数の文で表現する活動へ発展させる。 ・「内容・構成・正確さ」の観点で相互評価と書き直しを行い、無解答の減少につなげる。